

「国有林への期待、要望等について」

竹富町長 川満 栄長



竹富町は、沖縄本島から500km離れた八重山群島の中の、石垣島の南西に位置し、東西42km、南北40kmの広範囲に点在する大小16の島々からなる日本最南端の町です。中でも西表島は亜熱帯性常緑広葉樹林やマグローブ林など原生林におおわれ自然豊かな島で、山間部の大部分は国有林で形成され島の大部分を占めています。

近年、西表島を訪れる観光客数は平成19年（113万人）をピーク時に減少傾向にあるが、平成23年3月に新石垣空港の開港を控え、今後観光客の増加が予想されています。

観光産業は西表島をはじめ竹富町内各島々の主要産業であり自然環境の保全を図りながら、重要な政策課題として観光振興の様々な施策や取り組みを行っているところです。しかし、西表島においては自然環境を利用した観光形態の一部で、その保護・保全対策の取り組みが十分で無い事案も見受けられます。

現在、観光ルート化している西表島西部の「ヒナイ川河口」から「ピナイサーラの滝」までの国有林野は、町が沖縄森林管理署より使用許可を受け適切な入林制限を図る目的でカヌー組合と覚書を締結しておりますが、組合員数はH14年の覚書締結時の15業者から増加の一途を辿っています。

覚書では森林への負担を軽減するため、一日当たりのお客さんの引率人数を最大14名とする自主ルールを定めています。しかし、年間利用者が500人超となるなどカヌーを利用したエコツアーは人気を集める一方、新たな課題や問題点も発生しています。駐車場・トイレ・踏圧による土壌硬化の問題などが代表的な例です。

課題解決に向け取組むことは勿論のこと、その他・浦内川・仲間川・前良川・後良川・仲良川等流域に生息する動植物等への影響等も考慮しながら本町の貴重な財産である自然環境の保全と観光産業の両立を目指し、身近な自然とのふれあいの場として適切に管理され、観光客や住民に憩いと学びの場を提供し、森林環境にも観光客にも優しい利活用を行うためのルール作り等が必要であると考えています。今後も各関係機関と意見交換を図りながら、西表島を主とした国有林野の適正な利活用に向けて取組んでまいります。